

平町電話開通御披露

七二七	七二六	七二四	七二二	七二一	七二〇	七一七	七一六	七一二	七一一	七一〇	七〇八
日進堂支店 島田藤吉	柴田德二 八幡小路六〇	和洋酒類商 高田清一郎 味噌醬油 警騎屋號(鎌田町二四)	麻生川顯 仲間町	伊澤眷二 材木町三二	熊谷丈作 田町五	橋本屋商店 神具佛具造花製造 真根藤川井町馬	馬月徳三郎 舊城跡(櫻町一)	スガノヤ提灯店 四丁目三三	横山彰介商店 洋品足袋卸商 平驛前新道	磐城佑賢學舎 舊城跡	縣社子歟倉神社 社務所
七四二	七四一	七四〇	七三九	七三七	七三六	七三五	七三三	七三一	七三〇	七二八	
堅田欽次 白銀町四〇	高油級遠藤平支店 材木町九	精米穀 七山城屋商店 江尻木松町吉	五内科小兒科 花柳病科 院長遠藤淺香	周藝娼妓 永井安太郎 田町一九	時計及貴金屬眼鏡 金光堂時計店 五丁目	海陸商高野虎三郎 三國屋號(三丁目)	石城郡内郷村境新町(尼子亭前) 山田麻袋商店 塩坂勝二	辯護士酒井喜代正 搔樋小路	長瀬文造 古鍛冶町九〇	肥料穀 花澤支店 花澤久一 目郎	料理店 尼忠 新田町一〇

日刊 發行兼編輯人 川崎文治

本社下町番地(電話六三〇番) 印刷所 常磐毎日印刷所



刊夕日一月九

定部金貳錢
月金貳錢
料音廣五字一十二
五十一行
日刊休日曜大祭
日祝日ノ翌
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社
電話六三〇番

常磐論壇 政局の行詰りと 政本台の機會

承前—
更に現内閣の最も重要な
政綱たる官制の修正はか
の松島事件を初め復興局
見事な野行事件等々が
より世に文字の怪寫とな
今日度朴烈文子に至つて
全が世に現るるに至つて
責任を負はねばならぬ重
は反つて官制の紊亂の大
如き不逞極まる大逆犯人
對して政府が世間の疑念
も顧みずして減刑の疑念
奏請したることは甚だ其
あつたが今回の事件によつ
てこの大逆犯人に對し豫審

判事室に於ては、
寫眞を撮り、
は、特に出た、
く、囚人の、
し、人の、
聞、至つて、
断、責任、
政、何れ、
り、内閣、
現、この、
つ、は、
む、出、
つ、機、
會、費、
介、唯、
勢、對、
力、事、
は、上、
で、つ、
て、は、
恐、無、
ら、機、
其、あ、
の、は、
合、こ、
が、を、
收、政、
て、局、
で、明、
を、白、
(をばり)

亡父葬送の際
は遠路御厚葬
成被下御厚志
の段奉深謝候
上を以て御厚
禮申上候
九月一日
男植村喜一
男星野庸次
外親戚一同

各銀行の金庫には金が何ふれて居る

財界現況は金融緩慢の一語 白井警務専務語る

◇外國貿易の趨勢だけを眺めても我國の經濟界がいよゝ轉換期にはいつたといふことが出来る、戦後の好況から不況のどん底になげ込まれた大正九年春より指を屈すると既に七星霜を闊してゐるから如何に深刻な不景氣でもそろゝ影をひそめてもよかりさうな頃合なのである

◇好況から不振へは千俣の溪間に抛り込まれたやうに俄然的な現象で展開されるのだが不景氣から振興へは必ず牛歩的の行程をたどるの古きを通じての原理なのであらう

◇然し轉換期と稱するのは一般財界の整理が完了してこれから實業上の新計畫がたてられやうとする場合なのであるから通俗的な景氣の引立てとは自ら異なるのは致し方ないのである

◇昨今商工業者は異口同音に不景氣の深刻を唱へ何れの日において振興の實があげられるかと懸念してゐるけれど前記の外國貿易とか國內産業の推移とかを仔細に觀察するとさまた悲觀すべきでないとは識者のひとしく承認する處なのである

◇過渡期の經濟界少く其財界の現況は金融緩慢の一語につきてゐる中央方面の豪

員選舉は十月十六日各町村役場に於て執行さるゝことに決定した

盗んだ品の證明を願ふ

自繩自縛の賊 郡山市宇東町鍛冶職小林初

米收は平年作確實

米價は先安の傾向

石城郡水稲は目下出穂期にあり七割方出揃つたが郡農會の調査に依れば本年は種付り當時の天候極めて不順であつたため少からず今後を

憂慮され

たが其の後天候恢復と共に發育順調に進んだ結果早害のため植付不能或は三割方の收穫感

耐かん性水稲 磐城綿獎勵

磯上氏が發見

石城郡磐崎村大字西郷磯上平太郎氏は一昨年から同地方が旬日に亘る旱天の折には全く渴水と水田の灌漑も不可能な有様なのである程度までこの旱害に逢着しても收穫に減少を來さぬ耐旱水稲の採種に没頭し來つたが本年の成績を見るに同村にある従來の水稲が旱害の

お料理講習

平陽校にて

平町播越小路平陽實科女學校に於て三四の兩日正午より料理講習會が開かれる筈であるが講師は石城郡植田町出身にして日本婦人教育會及び東京割烹研究會の講師日渡正義氏にて會費は一日分廿錢(外に材料費五十錢)一回の講習にて直ちに思ふ儘役立つ事が同講習の特徴で有合せの材料を使つて頗る美味な料理が立ち所に出来る



金物のつぎ方(上)

一寸した金物家具の破損や金物のつぎ合せには高い金をかけて修繕屋をよぶまで

もない。ハンダつぎの心得があれば一寸きよくな人でしたら譯なくやれるハンダは白ろうまたは軟ろうといつてスズと鉛の合金です。通例はスズ四十パーセント鉛六十パーセントの割合ですが、特に食器具のつぎ合せは農務省令によつてスズが七五鉛は二五に制定されて

おます。まづ、ハンダをつける前に器物の酸化物やあかなごをとかす爲に鹽酸や鹽化アエンを用ふるのです。鹽酸はそのまゝでは強過ぎるから適當の水を割るので、鹽化アエンは鹽酸にアエンをとかしてそのほう和した處で用ふるかこれに水を割つて用ふるのです

蠶業取締所 移轉の運動

知事も諒解

久之濱へ設置の沿革 平町に蠶業取締所を久の濱より移轉設置すべき陳情の爲め伏見町長本郡出選縣會議員其他出縣せるは既記の如くであるが一行は

川淵知事

に對して其必要なるべき理由を力説し或る種の諒解を得て一日歸郡した、蠶業取締所が久之濱に設置された沿革を聞くに元同支所は平町の養蠶講習所の中に併置されてあつた爲めに多數の病

菌等が般入され講習所の蠶種及び蠶兒に悪影響が甚だしかつた結果同講習所は取締所の閉鎖を望んで止まないも力があつた爲め縣當局は其意嚮を汲んで是れが移轉の躰を固めた久之濱は役場敷地を提供する條件を以つて是れが設置方を熱望し遂に縣の容るゝ處となり同地に取締所が移つて今日に及んだのである、然るに郡廢

石城郡に

は蠶養の指導機關が絶無となり斯業の發展上甚だ憂慮すべき状態となつた爲め郡内各町村は擧つて平町に設置された

飛び降りて 兩足を切断

小名濱軌道で

二十九日午前八時五分頃石城郡小名濱町海岸軌道のガソリン機關車が泉町地内を進行中泉村字本屋安部義安長男敦良(二)は停車しない中に飛降り誤つて兩足を切断し直に平町上田病院に收容し應急手當を施したが生命危篤

高値を待つ

石城の養蠶家

石城地方本年の秋蠶及び晩秋蠶は上簇期に降雨を見たため給桑不圓滑無理桑使用等のため繭質一般によろこからず加ふるに製糸家が春繭の買競争をやつた

結果資金

の缺乏或ひは手持繭豊富等が原因して秋繭の買入れを躊躇してゐるため法外な安値に養蠶家は高く七圓安くて五圓内外といふ馬鹿値で賣らなければならぬが、そんな安値でも尙製糸家の不買から生繭を持つて泣くの苦境

に立つてゐるがこれがため石城利用販賣組合四倉繭市場 乾繭倉庫 には目下四百貫近くの秋繭が積まれ養蠶家は何時とも豫想がつかない高値の出るのを一日千秋の思ひで待つてゐる有様で繭價の低落で農家は著しく苦境に立つてゐる

本日開通す

棄權者が四名

平町郵便局本年度架設電話は本日開通する事となつたが當選者中四名の棄權者あり未だ仙台通信局より何等の通牒に接しないが是れは當然補欠者中の四名が繰り上げられる事となる筈

其必要なるべき理由を力説し或る種の諒解を得て一日歸郡した、蠶業取締所が久之濱に設置された沿革を聞くに元同支所は平町の養蠶講習所の中に併置されてあつた爲めに多數の病

菌等が般入され講習所の蠶種及び蠶兒に悪影響が甚だしかつた結果同講習所は取締所の閉鎖を望んで止まないも力があつた爲め縣當局は其意嚮を汲んで是れが移轉の躰を固めた久之濱は役場敷地を提供する條件を以つて是れが設置方を熱望し遂に縣の容るゝ處となり同地に取締所が移つて今日に及んだのである、然るに郡廢

き旨を翹望するに至り過般の町村長會に於ても此事が満場一致の決議を見た爲め陳情運動を開始するに至つたのである

繭を積んで 石城地方本年の秋蠶及び晩秋蠶は上簇期に降雨を見たため給桑不圓滑無理桑使用等のため繭質一般によろこからず加ふるに製糸家が春繭の買競争をやつた

に立つてゐるがこれがため石城利用販賣組合四倉繭市場 乾繭倉庫 には目下四百貫近くの秋繭が積まれ養蠶家は何時とも豫想がつかない高値の出るのを一日千秋の思ひで待つてゐる有様で繭價の低落で農家は著しく苦境に立つてゐる